

## 三沢市立三沢病院での小児科実習を終えて

弘前大学医学部医学科 5年 中野 皐月

三沢市立三沢病院の小児科において2週間の院外実習をさせていただきました。前のクールである大学病院の小児科では、血液・腎臓・心臓・神経といった専門的疾患を中心に学ばせていただきましたが、本実習では地域医療の現場として、Common Diseaseを幅広く経験させていただきました。この違いを通して、小児医療の裾野の広さと、地域における役割の重要性を実感しました。



実習では、外来見学を中心に多くのことを学ばせていただきました。外来では、便秘や発熱、感染症など日常的に多くみられる疾患に対して丁寧な診療が行われていました。また、小児は、成人と異なり、自身の症状を正確に訴えることが難しく、体調が悪くても一見元気に見えることも印象的でした。その中で、診察室での所見だけでなく、家庭での様子に関する保護者からの情報や、待合室での表情・活動性なども含めて総合的に評価することの重要性を学びました。さらに、月曜日から金曜日まで異なる先生の診療に同席させていただき、それぞれの診療スタイルや説明の工夫を学ぶことができました。患児への声かけや診察時の配慮、保護者へのわかりやすい説明など、安心して受診できる環境づくりを学ばせていただき、小児科診療の奥深さを感じました。

また、新生児の出生直後から子どもたちの成長過程において診療に継続して関わり、兄弟も含めて長期的に診療されている様子を拝見し、小児科医が地域の子どもの成長を長い時間軸で見守る存在であることを実感しました。診療では、病気のことだけでなく、担任の先生との関係や学校生活、最近興味を持っていることなど日常生活にも目を向けた問診が行われており、子どもを一人の生活者として包括的に捉える視点の重要性を学びました。

病院が病気を診る場所であることはもちろんですが、子どもたちの心身の成長を見守る場でもあることを身をもって学ぶ機会となりました。また、先生方の診療を通して、子どもを育てる保護者の方々の大変さにも触れ、その背景を理解したうえで関わることの重要性を学びました。最後になりますが、本実習にあたりご指導いただいた先生方をはじめ、看

護師の皆様、管理課の皆様に心より御礼申し上げます。大変貴重な学びの機会をいただき、ありがとうございました。

実習期間: 2026.4.20～2026.5.1